

HAB開局35周年「メディアリテラシー出前授業」開催 ～災害時の事例から学ぶ フェイク情報を見極めるポイント～



北陸朝日放送(本社:石川県金沢市、以下HAB)は、地域貢献活動の一環として、テレビ局ならではの知見を活かしたメディアリテラシー教育に継続的に取り組んでいます。

近年、SNSなどを通じて子どもたちが偽・誤情報に直面するリスクが高まり、正しい情報を見極める力がますます重要となっています。

今年度は開局35周年の取り組みとして、能登半島地震の際に拡散した“フェイク情報”や、AI技術で生成される“ディープフェイク”をテーマに、地元中学校で下記の通り、出前授業を実施します。

◆2026年度第1回は、かほく市立高松中学校にて開催

生成AIやフェイク情報に詳しい福井工業大学の馬場口登学長と、HAB報道制作局の記者が講師を務め、災害時に身近に潜む“フェイク情報”のリスクや、その見極め方について、最新の事例や取材から放送までの実体験を交え、分かりやすく解説します。

■事業名 『災害時の事例から学ぶ フェイク情報を見極めるポイント』

(2026年度 日本民間放送連盟メディアリテラシー活動助成事業)

■日程・会場 2026年6月23日(火) かほく市立高松中学校(石川県かほく市)

■講師 福井工業大学学長 馬場口登氏 、 HAB報道制作局 記者

【HABメディアリテラシー事業 これまでの主な実績】

2022年度 『つなぐ記憶』(戦争や平和について地元の歴史・体験談の出前授業)

2024年度 『新型コロナウイルス拡大初期から学ぶ「情報リテラシー」』

HABはこれからも、地域に根差した情報発信と教育活動を通じて、安心・安全な社会づくりに貢献してまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

HAB編成局総合編成部